

第4回 日本心臓リハビリテーション学会 北海道支部地方会開催のご挨拶

第4回 日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会

会 長 吉田 一郎

帯広協会病院 副院長・心臓リハビリテーションセンター長

ようこそ帯広へ

平成から令和と時代が変わった年に、この第4回心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会も従来とは少し変わって帯広で開催することになりました。これまでの11月開催から9月と日程が早まり、YIAも導入するなど例年とは異なることが多々ありますが、多くの施設から演題応募をいただき皆様のご協力に感謝しております。

帯広という街は十勝地方の中核都市であり、十勝は食料自給率1100%といわれ北海道の中でも有数の食糧基地です。『帯広市では、「食と農林漁業」を柱とした地域産業政策の考え方を「フードバレーとかち」と総称し、まちづくりの旗印として、十勝全域とスクラムを組んで進め、まちづくり全体に展開しながら国内外へ地域の魅力を発信していきます』（帯広市ホームページより抜粋）。

今回の学会のテーマは「フード×ハートとかち」～食べるをなおし心臓をなおす～として「心臓病と食」について考えていく企画としました。高齢化やフレイルに伴い通院すら困難な患者さんの在宅での栄養管理をいかに行うか。帯広・十勝で配食サービス（しんかーずランチ）を行っている油谷裕子先生の基調講演「地域の管理栄養士として～栄養ケア・ステーションの役割とこれから～」を賜り、そのような患者さんが入院したときには、どのような栄養管理を行ってリハビリを行っていくのが良いのかを、全国でご活躍中の東京医科大学病院、宮澤靖先生からの「高齢者心不全患者の栄養サポート」という特別講演で、「心臓病と食」について皆様と考えていきたいと思っております。

今回は基調講演と特別講演の間に、「しんかーずランチ」の（減塩）弁当を皆様に味わっていただき、ふだん患者さんに指導している減塩について今後の参考になれば幸いです。さらに皆様がこの文章を読んでいる学会当日に台風が来ることなく、スイーツや豚丼等、充実した帯広の「食」を堪能していただけることを願っております。

◆◆◆◆◆ 会場のご案内 ◆◆◆◆◆

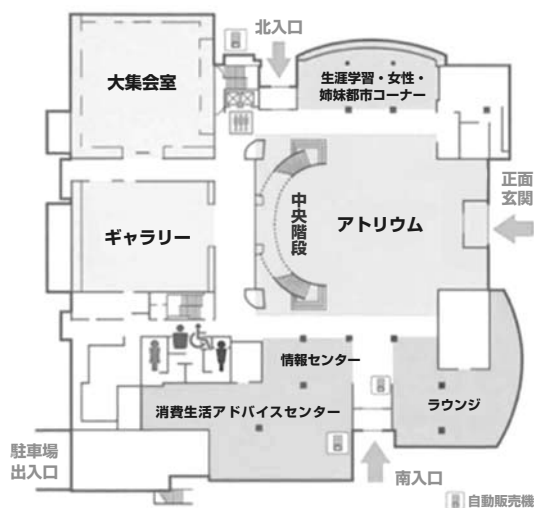
会場：とちプラザ レインボーホール
 住所：北海道帯広市西4条南13丁目1番地
 電話：0155-22-7890
 JR「帯広駅」南側 徒歩3分



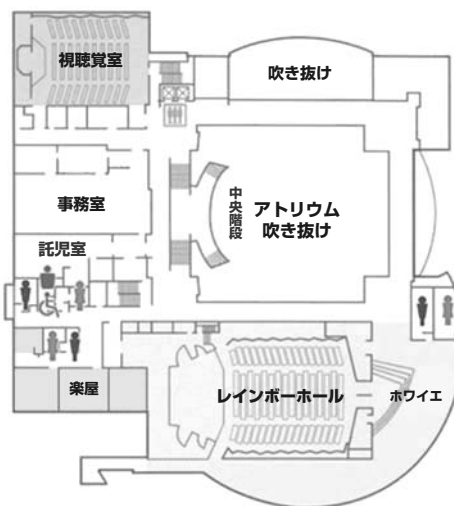
【駐車場】

会場の地下駐車場(無料)が満車の場合は最寄りの市営駐車場等をご利用ください。

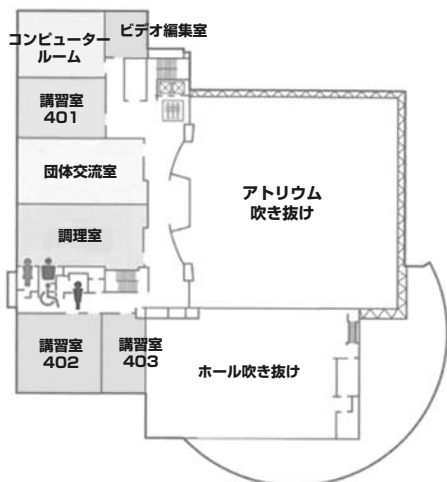
1F



2F レインボーホール・視聴覚室



4F 昼食用 講習室



【重要なお知らせ】

- ・講演会場での飲食は原則禁止です。
- ・昼食会場は4F 講習室 402, 403 です。
- ・お弁当のゴミは講習室内の所定の場所に捨ててください。
- ・喫煙所は1F 南玄関脇の屋外に灰皿が設置してあります

第4回 日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会
タイムテーブル

	会場 2階 レインボーホール		2階 視聴覚室
10:00~10:05	会長挨拶		
10:10~10:45	一般演題① 5×7分	10:10~10:45	一般講演② 5×7分
10:45~11:30	YIAセッション 6×7分	10:45~11:30	一般演題③ 6×7分
11:30~11:40	休憩		
11:40~12:30	基調講演 栄養ケア・ステーション ぱすと 油谷 裕子 先生		3階 会議室304
12:30~13:30	休憩 昼食会場 4階 講習室	12:35~12:50	幹事会
		12:50~13:05	YIA審査会
		13:05~13:20	評議員会
13:30~14:30	特別講演 東京医科大学病院 栄養管理科 宮澤 靖 先生		
14:30~14:40	YIA表彰式		
14:40~14:50	会長挨拶		

一般演題の演者の皆様へ

1. 一般演題の発表時間は1演題につき7分（発表5分、討論2分）です。演題上に計時装置が設置してあります。発表1分前に黄色、終了時に赤色の警告ランプが点灯します。時間厳守でお願いいたします。
2. 口演発表はPowerPointと液晶プロジェクターを用いた発表のみとさせていただきます。
3. 発表用のPC（Windows7）は事務局で用意します。事務局にて準備するPCのアプリケーションはPowerPoint2007、PowerPoint2010、PowerPoint2013、PowerPoint2016、解像度は1024×768です。
4. 発表用のデータをメディアでお持ちいただく場合は、CD-RもしくはUSBフラッシュメモリーでお願いします。データは必ずバックアップをご準備下さい。お預かりした発表データは、発表終了後消去いたします。
5. 発表を円滑に行うため、なるべく事務局のPCに発表用データを入れてご使用下さい（Macintoshの場合、動画などがある場合を除く）。
6. 発表者ツールのご使用は出来ません。
7. PowerPointのデータ作成においては、Windows標準フォント（MSゴシック、MS明朝等）をご使用下さい。それ以外では、正しく表示されない場合があります。
8. アニメーション、動画の制限はありませんが、PowerPointに貼り付けている動画や音声は、Windows Media Playerで再生できるように作成して下さい（拡張子.wmv）推奨。
9. PowerPointのファイルと動画のファイルは必ず同じフォルダーにお入れ下さい。
10. お持込のデータによるウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルス駆除ソフトでチェックして下さい。
11. 持ち込まれるメディアには、当日発表されるデータ以外入れないようにして下さい。
12. セッション開始20分前までにPC受付にて、データ・コンピュータ受付及び確認を必ず行って下さい。
13. 前発表者が登壇後、直ちに次演者席にお着き下さい。

PC持込の際の注意

1. 発表データがMacintoshの場合は、必ずPC本体と附属のACアダプター、モニタ出力用変換アダプターをお持込下さい。
2. 会場で用意するPCケーブルコネクターの形状はD-sub15ピンです。一部の薄型ノートPCで、モニタ出力端子がD-sub15ピンでない物があります。別売りのアダプターを必ずご用意下さい。
3. スクリーンセーバーおよび省電力設定は予め解除して下さい。
4. PCにパスワードが必要な場合はオペレータにその旨伝え、事前に解除をお願いします。
5. 万一のトラブルのため、バックアップのご用意をお願いします。

Young Investigator Award (YIA) の演者の皆様へ

- 1) 一般演題として応募された抄録の中から、満40歳未満の筆頭演者の抄録について、書類審査による事前選考を実施し、審査で上位にランクされた演題を複数（最大10演題）選出した後、発表者の承認が得られた演題のみ YIA セッションでご発表いただくことにしております。
- 2) 当日の口述発表では下記の各項目5点満点（総点数25点満点）で審査いたします。
 1. 正しい専門用語の使用（抄録も審査対象となります）
 2. スライドの構成・プレゼンテーション能力
 3. 考察の内容
 4. 質問に対する応答
 5. 心臓リハビリテーションに対する貢献度（新規性・インパクト）
- 3) 発表時間5分、討論2分とします。発表時間制限を超過した場合には超過時間に応じて減点されますのでご注意ください。
- 4) YIA セッションは午前に行い、セッション終了後に審査会を開催して選考いたします。
- 5) 表彰式は午後に行い、原則として最優秀賞1名、優秀賞2名を表彰します（特別な事情がない限り、YIA セッションの筆頭演者は表彰式に参加してください）。但し、同点の場合、受賞者数に変更となる可能性があります。
- 6) その他の発表様式は、一般演題と同様ですので、「一般演題の演者の皆様へ」のページをご参照ください。

第4回 日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会

プログラム

第4回 日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会
プログラム

会場 2階レインボーホール

10:00～10:05 会長挨拶

吉田 一郎 (帯広協会病院)

11:40～12:30 基調講演

座長：吉田 一郎

(帯広協会病院 副院長・心臓リハビリテーションセンター長)

「当院での心臓リハビリに対する栄養士の取り組み」

帯広協会病院 栄養管理室・主任

堀川 静香 先生

「地域の管理栄養士として

～栄養ケア・ステーションの役割とこれから～」

栄養ケア・ステーションぱすと・代表

油谷 裕子 先生

13:30～14:30 特別講演

座長：吉田 一郎

(帯広協会病院 副院長・心臓リハビリテーションセンター長)

「高齢者心不全患者の栄養サポート」

東京医科大学病院 栄養管理科・科長

宮澤 靖 先生

10 : 10 ~ 10 : 45 一般演題セッション1
座長：平林 艦（苫小牧市立病院 循環器科医長）

1-1. 安静時代謝の計測により安全な運動負荷量の設定が可能であった1症例

医療法人 溪仁会 札幌溪仁会リハビリテーション病院¹

秋元 健太郎¹ 鈴木 耀介¹ 玉置 茂行¹ 佐藤 義文¹ 大本 泰裕¹

1-2. 包括的心臓リハビリテーションと MitraClip により自宅退院が可能となった重症心不全の1例

独立行政法人労働者健康安全機構 北海道中央労災病院 循環器科¹

松本 純一¹ 小原 雅彦¹ 高野 英行¹ 酒井 寛人¹

1-3. 冠危険因子を有する喫煙者における6ヶ月間の運動療法の効果

北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科¹

後藤 萌希¹ 岸本 康平¹ 高田 真吾¹ 沖田 孝一¹

1-4. 糖質制限および総カロリー制限が体力・精神面に与える影響

北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科¹

岸本 康平¹ 工藤 直也¹ 坂尻 一真¹ 佐藤 海斗¹ 佐藤 謙伸¹ 高橋 恒大¹ 細川 海吏¹
本多 大聖¹ 後藤 萌希¹ 高田 真吾¹ 沖田 孝一¹

1-5. 外来心リハ患者における IPAQ を用いた身体活動量評価と身体活動の特徴について

苫小牧市立病院 リハビリテーション科¹ 苫小牧市立病院 循環器内科²

堂下 準基¹ 三上 博也¹ 内山 千笑¹ 入倉 彩香¹ 平林 艦²

10 : 10 ~ 10 : 45 一般演題セッション2

座長：高橋 将成（市立釧路総合病院 心臓血管内科部長）

2-1. 心臓リハビリテーションに関わる理学療法士の増員に向けた取り組み

帯広協会病院 スポーツ医学・心臓リハビリテーションセンター¹

北海道大学大学院 循環病態内科学²

稲垣 諒¹ 角谷 尚哉² 中村 梨沙子¹ 塚田 貴紀¹ 森 茂樹¹ 吉田 一郎¹

2-2. 循環器疾患地域連携推進フォーラムの取り組み—地域と共に作り上げる心臓リハビリテーションを目指して—

国立病院機構函館病院リハビリテーション科¹ 国立病院機構函館病院循環器科²

国立病院機構函館病院地域医療連携室・相談支援室³ 訪問リハビリステーションひより坂⁴

野田 一樹¹ 畑中 紀世彦¹ 米谷 奈子³ 松田 泰樹⁴ 米澤 一也²

2-3. 開心術患者に対する嚔下スクリーニングツールの導入

市立釧路総合病院¹

田中 純¹ 高橋 将成¹ 増輪 真衣¹ 佐々木 道子¹ 鹿野 泰典¹

2-4. フレイルの有無が開心術後のリハビリテーション進行と身体機能に及ぼす影響

北海道循環器病院リハビリテーション科¹ 北海道循環器病院循環器内科²

蝦名 聖佳¹ 阿部 史¹ 住吉 良太¹ 大堀 克彦²

2-5. 心不全におけるキサントキシンオキシダーゼ阻害薬の投与は骨格筋異常・運動耐容能低下を予防する

帯広協会病院¹ 北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科²

北海道社会事業協会小樽病院³ 北海道大学大学院医学研究院循環病態内科学⁴

日本学術振興会特別研究員⁵

南部 秀雄¹ 高田 真吾² 前川 聡³ 角谷 尚哉^{4,5} 絹川 真太郎⁴ 安斉 俊久⁴

10 : 45 ~ 11 : 30 一般演題セッション3

座長 : 中村 梨沙子 (帯広協会病院心臓リハビリテーションセンター 理学療法系主任)

3-1. 看護面談におけるシステムづくりと今後の課題

独立行政法人労働者健康安全機構 北海道中央労災病院 看護部¹
独立行政法人労働者健康安全機構 北海道中央労災病院 中央リハビリテーション部²
独立行政法人労働者健康安全機構 北海道中央労災病院 栄養管理室³
独立行政法人労働者健康安全機構 北海道中央労災病院 循環器科⁴

村田 真弓¹ 佐々木 眞裕美¹ 田名邊 亮² 大泉 敬章² 田副 香織³ 越川 志保³ 松本 純一⁴

3-2. 心不全サポートチーム HST 活動と課題

北海道大野記念病院¹

大舩 孝則¹

3-3. 当院における心臓リハビリテーションの取り組み

医療法人北晨会 恵み野病院 循環器内科¹
医療法人北晨会 恵み野病院 リハビリテーション科²

平山 康高¹ 鈴木 伸穂¹ 下岡 良典¹ 牧口 展子¹ 成田 浩二¹ 橋本 智昭² 佐藤 恵介²
本田 欣誠²

3-4. 当院の通院リハビリテーションにおける心肺運動負荷試験導入後1年の経過報告

医療法人社団 高翔会 北星記念病院 リハビリテーション科¹
医療法人社団 高翔会 北星記念病院 診療科 リハビリテーション科²

福田 小百合¹ 立花 亜希¹ 稲垣 拓朗¹ 野澤 恭敬¹ 古舘 拓弥¹ 戸島 雅彦²

3-5. 在宅心臓リハビリテーション向け運動プログラムに関する基礎的検討

北海道循環器病院リハビリテーション科¹ 北海道循環器病院循環器内科²

井南 拓¹ 須藤 拓也¹ 工藤 真斗¹ 岡本 祐一郎¹ 阿部 史¹ 大堀 克彦² 村上 弘則²

3-6. 技術指導を重視した心臓リハビリ「歩くスキー」の参加状況と運動強度

社会医療法人 北海道循環器病院 リハビリテーション科¹
社会医療法人 北海道循環器病院 循環器内科²

工藤 真斗^{1,2} 住吉 良太¹ 須藤 拓也¹ 前田 諭志¹ 岡本 祐一郎¹ 阿部 史¹ 大堀 克彦²

10:45～11:30 YIAセッション

座長：福島 新（あさぶハート・内科クリニック院長）

審査員

米澤一也（国立病院機構函館病院 副院長・臨床研究部長）

泉 唯史（北海道医療大学 リハビリテーション科学研究科長）

沖田孝一（北翔大学生涯スポーツ学研究科 教授）

村岡卓哉（北海道文教大学 人間科学部 理学療法学科 准教授）

伊達 歩（旭川医科大学 内科学講座 循環・呼吸・神経病態内科学分野助教）

Y-1. 開心術後早期の摂取エネルギー量はリハビリテーションの進行と関連する

社会医療法人 北海道循環器病院 リハビリテーション科¹

社会医療法人 北海道循環器病院 循環器内科²

橋田 奈央¹ 阿部 史¹ 住吉 良太¹ 大堀 克彦²

Y-2. 経皮的僧帽弁形成術前後における運動耐容能の検討

旭川医科大学 リハビリテーション部¹ 旭川医科大学 リハビリテーション科²

旭川医科大学 循環器内科³

三田村 信雄¹ 伊達 歩^{2,3} 久木田 新³ 早坂 太希³ 本谷 光咲子³ 木谷 祐也³

蓑島 暁帆³ 竹内 利治³ 呂 隆徳¹ 長谷部 直幸³ 大田 哲生²

Y-3. 日本語版 SARC-F は心不全患者のサルコペニアの診断に有用か？

札幌医科大学附属病院リハビリテーション部¹ 札幌循環器病院リハビリテーション科²

函館五稜郭病院リハビリテーション科³ 札幌医科大学医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座⁴

北海道循環器病院 循環器内科⁵ 札幌医科大学医学部 病院管理学⁶

高村 悠平¹ 片野 峻敏¹ 本間 傑² 井上 拓也¹ 長岡 凌平¹ 下村 佳奈子³ 大堀 克彦^{4,5}

矢野 俊之⁴ 橋本 暁佳^{4,6}

Y-4. 高齢心不全におけるサルコペニアは骨粗鬆症のリスク因子である

札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部¹ 札幌循環器病院 リハビリテーション科²

函館五稜郭病院 リハビリテーション科³ 札幌医科大学 医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座⁴

北海道循環器病院 循環器内科⁵ 札幌医科大学 医学部 病院管理学⁶

長岡 凌平¹ 片野 峻敏¹ 本間 傑² 高村 悠平¹ 井上 拓也¹ 下村 佳奈子³ 大堀 克彦^{4,5}

矢野 俊之⁴ 片寄 正樹¹ 橋本 暁佳^{4,6}

Y-5. 簡易フレイル・インデックスは高齢心血管疾患患者のフレイル評価に利用できる

札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部¹ 札幌循環器病院 リハビリテーション科²
函館五稜郭病院 リハビリテーション科³ 札幌医科大学 医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座⁴
北海道循環器病院 循環器内科⁵ 札幌医科大学 医学部 病院管理学⁶

井上 拓也¹ 片野 峻敏¹ 本間 傑² 高村 悠平¹ 長岡 凌平¹ 下村 佳奈子³ 大堀 克彦^{4,5}
矢野 俊之⁴ 橋本 暁佳^{4,6}

Y-6. 高齢心血管疾患患者の筋機能と筋量が ADL 能力に与える影響の検討

札幌循環器病院リハビリテーション科¹ 札幌医科大学附属病院リハビリテーション部²
札幌医科大学医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座³
北海道循環器病院 循環器内科⁴ 函館五稜郭病院 リハビリテーション科⁵
札幌医科大学附属病院 看護部⁶ 札幌循環器病院 循環器内科⁷
札幌医科大学医学部 病院管理学⁸

本間 傑¹ 片野 峻敏² 矢野 俊之³ 大堀 克彦^{3,4} 井上 拓也² 高村 悠平² 長岡 凌平²
下村 佳奈子⁵ 渡辺 絢子⁶ 善岡 信博⁷ 橋本 暁佳^{3,8}